

そしていよいよ本番当日になり、白田さんと私は固い握手をし「一緒に頑張ろう！」と気持ちを一つにしました。中学二年生330人の生徒さんと、多くの先生方が会場内に待機している中、生徒の皆さんのキラキラした瞳と「聴こう」という思いを感じながら、いよいよ始まりました。

本番当日



を迎えました。新調したネクタイとカーディガンでかつこよくキメて、やる気満々。「全く緊張してないです」ときっぱり言う白田さんに比べて、初めての経験なので緊張している私でした。

問もあり、練習してきた内容だけではない、アドリブで答える等、余裕のある白田さんでした。そして「嫌なことがあったり、不安な事があっても、毎日仲間の皆と一緒に活動していると、頑張れます。皆と一緒に絵を描いていると忘れられます。僕の絵を見て、たくさんの方が『いいね、素敵だね』と言ってくれます。だからますます頑張れます。本当に幸せだと思っています。これから頑張りたいと思います。中学生の皆さんも色々な事があると思うけど頑張ってください」と伝えていました。その表情は本当にかつこよく輝いていました。

次は私が「白田さんのこれまでの努力やチャレンジについて、または工房集・川口太陽の家等について」話すことになりました。パワーポイントを利用し、施設の紹介や仲間の様子、作品を見ながら進めていきました。生徒の皆さんは、じつくり真剣な表情でよく聞いてくれていました。白田さんの事や、一緒に活動をしてきたことを話しました。そして「この仲間にはどんな仕事ができるか」「約束事の多い仕事で難しい仲間たちのできる事や力を活かせる事」を模索していくうちに、絵を描いたり、機織り、木工、色々な立体作品やス

最後に白田さんと私で挨拶をし、無事に終わることができました。すると白田さんが泣いてしまったのです。理由を訊ねると「本当に良かった。



嬉し〜

テンドグラス等創作しています。好きな事、得意な事、これならできる！というものを仲間たちと一緒に見つけて、それを仕事にしています。作品が展示、売れること、グッズや商品にして販売するという事ももちろん大切です。この活動を通して、社会と繋がること、社会参加も大切な役割だと思っていますと伝えました。

皆が聞いてくれたし、僕の絵を見て皆が元気になったかなと思ったからそれが嬉しくて〜」との事でした。作品が展示され、社会に繋がること、社会参加につながることも、今回の様な取り組みも仲間たち、私たちに与えて下さった大切なものと実感しました。

後日、先生からお礼の言葉と共に生徒さんの感想も送って頂きました。白田さんと一緒に読みながら、また二人で涙が出ました。「周りの人に流されず、自分が思う最もいい人生を歩んでいく」「周りの人からのアドバイスによって得られるものも大いにあるのだと知ることができました」「少しずつ自分にあった方法を模索していく事が大切」等、本当に沢山の素敵な感想を頂きました。また、最後に白田さんが泣いた姿を見ていた生徒さんもうたやうで「色々な事を考えて、感動して泣いていたのではなか」という生徒さんもありました。このような機会を頂き、改めて自分の仕事を振り返り、今後の糧となります。白田さんとの関係もますます深まると思います。白田さんもお一層絵を描くことに力を注ぎ、毎日黙々と頑張っています。戸田市新曾中学校の皆様方に心から感謝申し上げます。

川口太陽の家職員 山内 樹美子

おひさま通信

中学校の授業に 招かれて

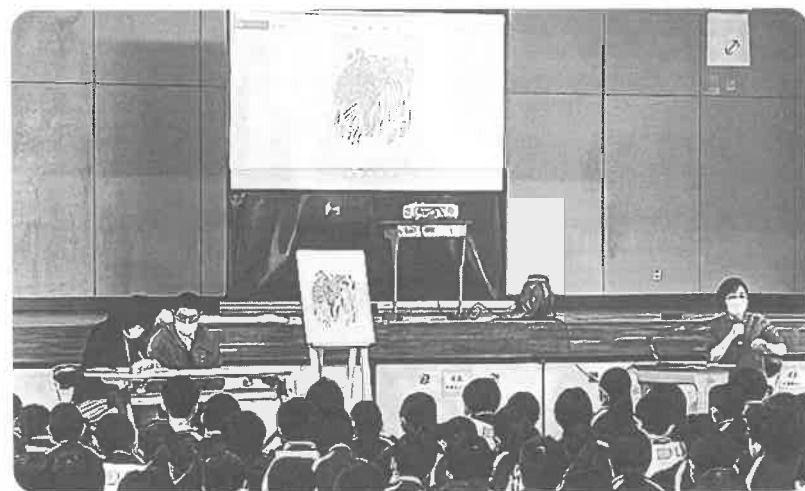
取り組みを通じて
深められた仲間との関係

川口太陽の家

やったことないけど、やってみたい

2024年3月、戸田市新曾中学校の『美術鑑賞授業』問い×鑑賞』に参加してきました。今回で3回目となるこの取り組みに、川口太陽の家の白田直紀さんの作品が取り上げられることになりました。この鑑賞授業の目的は「創作活動の喜びや魅力、一人の作家の生き方を考えるきっかけにしたい。また、作品や作家、支援員と中学生が鑑賞授業を介して出会う事から、お互いにとっての学びが得られる場を生み出した」ということです。

まず白田さんに「自分の作品を中学生に見てもらおう。毎日一生懸命取り組んでいる絵画(仕事)の事を話してみよう」と伝えました。すると白田さんは迷うことなく「やったことないけど、やってみたい」と答えました。



後日、新曾中の先生が白田さんへ会いに来て、直接正式に依頼してくださいました。その時の白田さんはとても堂々として、嬉しそうに誇らしげに「やりたいと思います」と受けていました。

生徒の皆さんには予め事前に作家や作品の情報は伝えずに、作品だけを鑑賞したそうです。その中で感じた事や質問をまとめたものを先にこちらに送って頂き、白田さんと一緒に読んで、一つひとつの質問につい

て考えていきました。その事を考えるにあたり、川口太陽の家に入所し、絵画に取り組む事になった背景やこれまでの事を一緒に振り返りました。

白田さんに歴史あり

白田さんは川口太陽の家に入所して今年度で18年目となります。当初「曲がったらどうしよう」「はみ出たらどうしよう」と気にしてなかなか描くことができませんでした。当時担当していた私は「違う仕事を模索しようか」と悩んだものです。

しかし、同じ空間で一緒に絵画や表現活動をしている仲間たちの作品や様子を見ているうちに「はみ出てもいいんだ」という気持ちになつていき、またそばにいる仲間たちから「大丈夫だよ」「〇〇を描いてみたら？」とのアドバイスを励まされ、少しずつ安心して描けるようになっていきました。

絵を描くということ以外に、太陽の家での活動の中で色々な事があり、不安になったり、悩んだりした事もありましたが、白田さんの話を聴き、一緒に考えながら、白田さんの不安や悩みを解決したり、安心出来るように共に過ごしてきました。

太陽の家で、仲間たちと一緒に絵を描く仕事(表現活動)をしていくうちに、白田さん自身たくましく、

自信を持つて毎日頑張れるようになってきました。そして絵画に対して、描きたいものが色々浮かび、大好きな「赤」をメインに、使いたい色も広がって白田さんの世界観満載の作品が多く誕生するようになりました。

植物を主に描きながら、最近では人物や好きなものを描くことにも挑戦しています。そして、外部の作品展や企業とのコラボにも繋がっています。あの時、絵を描くという事を諦めずに本当に良かったと思っています。

これらのことを白田さんと一緒に振り返ることができ、改めて「白田さんに歴史あり」と感じました。また、お互いの事を再確認でき、そこには「信頼関係」が成立しているという事も、改めて二人で実感が持てたように思います。

だからこそ、中学生の皆さんの前で、白田さんは「自分が頑張っている事を話したい、聞いて欲しい」と熱い思いがあり、私も「私たちの活動を知ってもらおう。その中であった悩みや葛藤をどう乗り越えてきたのか、どんな背景があつてこそ今の今なのかを聞いてほしい」と思いました。

当日に向けて、一緒に台本を考え二人でリハールも重ねてきました。自宅に帰ってから、ご両親からアドバイスをもらいながら、本番の日